

くまびょう

106号

NEWS

くまびょう
NEWS2006年
4月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター
(前 国立熊本病院)

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501 (代)

FAX (096) 325-2519

独立行政法人化3年目を迎えて

国立病院機構
熊本医療センター
病院長

宮崎 久義

早いもので国立病院が独立行政法人国立病院機構として新しい歩みをはじめて3年目を迎えました。2年を1期として考えますと第1期創設期に続く第2期の成長期に入ったのではないかと考えます。

これから種々の新しい取り組みが実行に移されることと思います。国立病院機

構熊本医療センターとしましても、病院新築第Ⅱ期工事をすすめるなかではありますが、ソフト、ハード両面から更に医療の質の向上に努力してまいりたいと存じます。

本年2月にはクリティカルパスを基軸としたオーダリングシステムの導入を行い、2ヶ月を経た現在、円滑に作動しています。これからの業務支援と改善が威力を発揮することを期待しています。更にIT化をすすめ、近い将来の電子カルテへの移行に向けて作業し

ているところです。救命救急センターの充実、各種医療機器の整備も計画的に進めて参りたいと考えています。診療報酬の抑制が行われる厳しい環境の中ではありますが、医療の質の向上を目指しての努力は継続して参ります。当院もDPCへ移行します。御指導、御支援をよろしくお願い致します。

さて、独立行政法人への移行と時を同じくして新臨床研修制度がスタートし、この3月で第1期生が研修を修了しました。そして本月から新しく3期生が研修を開始します。2期生はまもなくお申し込み頂いた病院・診療所で地域医療の研修を始めさせていただきます。よろしく御協力のほどお願い申し上げます。なお、研修協力の御希望がありましたら研修部長 清川まで御連絡をお願いします。

この4月から熊本大学大学院医学教育部博士課程連携講座、国際医療福祉大学修士課程熊本教室を開設致しました。臨床研究部、看護学校、地域医療研修センターの活動と合わせ、職員として医療に従事しながら学習、研究できる環境が整いつつあります。

本年度もよろしくお願い申し上げます。

基本理念

国立病院機構熊本医療センターは

1. 最新の知識と医療技術をもって良質で安全な医療を提供します
2. 人権を尊重し、愛と礼節のある医療の実践を目指します
3. 教育・研修・研究を推進し、医学・医療の発展に寄与します
4. 国際医療協力を通して世界人類の健康に貢献します
5. 健全経営に努め、医療環境の向上を図ります

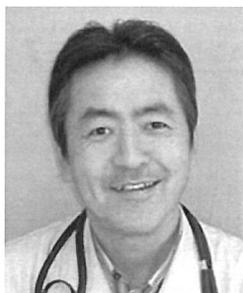


「ある民間病院院長のひとりごと」

医療法人室原会

菊南病院

院長 室原良治



いまだに熊本医療センターと言い難くて、国立病院と呼んでしまう。患者さんもまだ「国立」と呼んでいるようだ。熊本医療センターとこちらが言うのと、「ああ、国立ですね。」と言い正されるくらいである。5年後に、どちらの名称で呼ばれているだろう。「国立」という名称が残るような心配だ。

さて、その国立病院を含めたいわゆる公的病院を私たちが利用させて頂くのは、まず、緊急患者さんを紹介する時である。公的病院が充実して、病院間の差がない熊本では、どの病院を選択する

かは意外と他愛のないことで決まることがある。

例えば、前回電話をした際に交換台の人の愛想が良く、「いつもお世話になっています。」と言われたなんてこともある。もちろん、最も重要な点は、受け入れ態勢が良いことであろう。その点、国立病院は緊急の患者さんを電話で紹介しても断られた経験がない。ほとんどの場合、簡単に症状を聞いて「どうぞ、お待ちしております。」で電話は切れる。あまりにあっさりしており、患者さんの名前を伝えるのを忘れる程である。救命救急センターでの対応が充実していること、各科が揃っていることが強みである。同センターから各専門科への流れもスムーズと聞いている。

一方、逆に患者さんを紹介して頂く際にも嬉しいことがある。詳しい紹介状も有り難いが、紹介状に担当医のメールアドレスが記載してあるのも重宝している。紹介を受けた後、病状について担当医と意見を交換するのに役に立っているからだ。最新医療情報から孤立しないためにも、公的病院との情報交換、交流は民間病院医師にとって重要である。

独立行政法人化後、ここまで充実した病院を確立された皆さんに敬意を表するとともに、各科のベテラン医師を揃えた（国立病院）熊本医療センターが、かかりつけ医との連携を保ちながら、今後も熊本の基幹病院としてさらに発展されることを願ってやみません。

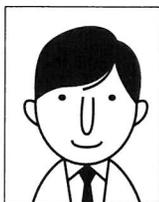
国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証の発行について

登録医証は、共同指導の際に名札としてご利用頂けます。発行をご希望の先生は、管理課庶務係（TEL 096-353-6501 内線390）までお申し込み下さいますようお願い致します。

写真は時間内であれば当院内で撮影できますし、縦4cm×横3cmで顔全体が写っているものをお持ち頂いても結構です。

また、駐車場については、玄関前駐車場ゲートにて駐車券をお取り頂き、0番窓口（時間内）又は、時間外受付（時間外）にお申し出頂ければ、無料の手続きを致します。

開放型病院登録医証



〇〇〇 医師会
熊本 太郎

平成18年1月1日交付
国立病院機構熊本医療センター

1. 国立病院機構熊本医療センターで診療を行う場合は、この証を持参し名札として着用下さい。
2. 駐車場を利用される場合は、この証を駐車場入口で提示して下さい。
3. この証の記載事項に変更があったときは速やかに届け出て下さい。
4. この証の有効期限は3年間と致します。

新任職員紹介



外科

たなか しんいちろう
田中 真一郎

4月より外科へ勤務しております田中真一郎と申します。

平成5年に熊本大学第二外科に入局し、1年間大学で研修を終えた後、平成6年より本病院（当時は国立熊本病院）にて2年間研修をさせて頂きました。その後は平成8年より熊本中央病院外科に勤務、平成9年より熊本大学大学院にて研究生生活、平成13年より天草中央総合病院外科に勤務後現在に至っております。

本病院に勤務していた頃はまだ救急体制が立ち上がったばかりの状態、まだまだ救急車も多くはなかった印象でしたが、そのころに比べると病院がかなり様変わりしているのにびっくりしました。私自身もかなり様変わりしてしまいましたが、この顔に見覚えのある方はどうぞ気軽に声を掛けてください。

これまで、至って標準的な外科臨床を行ってききましたので、これからは本病院で行われている最先端の手術や技術を習得していきたいと考えております。

5年間熊本市から離れておりましたので、久しぶりに実家のある熊本市内に帰ってきて、どこか新鮮な気持ちがあります。早く病院スタッフの一員としてお役に立てるよう頑張っていきたいと考えておりますので皆様のご指導の程どうぞよろしくお願い申し上げます。



外科

やまもと けんいちろう
山本 謙一郎

4月よりお世話になっております山本謙一郎です。高校までは佐賀市で育ちましたが、大学からはずっと熊本ですので人生の約半分は熊本ということになります。大学ではボート部に所属しており、毎日江津湖に通っていました。

平成10年に熊本大学を卒業後は熊本大学第二外科に入局し、大学病院で1年間、荒尾市民病院で2年間、熊本赤十字病院で1年間、外科を中心に研修しました。その後、平成14年より熊本大学大学院に進学し、「消化器癌の腹膜播種の発生と予防」という大きなテーマにて、腹膜播種再発の危険因子や腹膜播種再発に対する予防的治療などについて研究しました。平成17年10月からは熊本大学附属病院のICUに所属し、外科以外の重症症例や救急症例についても勉強していました。

本格的な臨床、特に手術からは暫く離れていますので不安もありますが、何事も勉強だと思って一生懸命頑張りますので、ご指導の程よろしくお願い致します。



整形外科

ぬまた こうすけ
沼田 亨 祐

本年4月から整形外科医として勤務することになりました沼田亨祐です。

平成11年に大分医科大学を卒業し、熊本大学整形外科に入局しました。平成12年より山口県の下関厚生病院に2年間勤務し、救急、一般外傷をメインに行っておりました。

平成14年から熊本大学医学部大学院に入学し、基礎の機能病理学教室にお世話になり、サイトカインと炎

症をテーマに、薬剤誘発性劇症肝炎に対するSOCS3のシグナル伝達抑制について研究していました。実験はほぼ終了したのですが、公開発表等まだ終了しておらず、勤務しながら少しずつ時間を割いて仕上げたいと思っています。

以前の病院も結構忙しい病院でしたが、これだけの救急患者数、手術数の病院勤務は初めてです。今度、国立病院機構熊本医療センター勤務になったことを周りの先生に伝えると、「忙しいけど頑張る。」とほとんど全ての先生に言われるので、身が引き締まる思いです。

この4年間は真の臨床の間からは離れておりましたので、周りの方々にはご迷惑をおかけすることが多いと思いますが、御指導、御鞭撻の程宜しくお願い致します。

最近のトピックス

超音波診断最近の知見



救命救急センター

外科

大堂雅晴

現在、国立病院機構熊本医療センターでは11台の機器を使用し、年間12,000件以上の超音波検査(以下US)が行なわれています。今回は、日常の診療で標準検査となったUSの最近の動向についていくつか報告します。

一般検査

現在外来診療では、1台に2ないし3本のプローブで検査を行なっています。私の研修医時代、肝胆膵領域では胆嚢の隆起性病変の精査時は5.0MHzコンベックス、肋間操作での5MHzラジアル型、肝臓の深部であれば3.5MHzと数本のプローブを用いて最良の画像を得る努力をしていました。最近①プローブが3段階の周波数可変式となり対象に応じた検査が1種類で可能。②画像のデジタル化そして組織からの二次高周波成分の情報処理システムTissue Harmonic Imaging (THI)の開発により病変と正常組織の識別が容易になり、診断の障壁であったアーチファクトの少ない画像が可能となった。これらの要因により最小限のプローブ選択で検査が可能となりました。

Real Time Virtual Sonography:RVS

ゲームなどで普及しているバーチャルリアリティの技術が超音波とCTを結びつけた手技です。プローブに磁気センサーを装着し、その位置と動きを予め保存しておいたCT画像に一致するように再構成画面を表示するシステムであり、プローブの断層像に一致したCT画像をリアルタイムに確認できる画像診断システムで現在肝がんの経皮治療のより正確なナビゲーターとして使用されています。今後診断、治療のみならず教育面での有用性が期待されています。

造影US

1999年に認可されたLevovistのみが現在使用されています(図1)。それまでの造影USといえば血管造影時に自己血液あるいは強ミノCを混入しマイクロバブルを作成、経動脈性に注入し、肝臓、胆嚢、膵臓の診断を行なっていましたが、侵襲的な検査でした。その後超音波用造影剤Levovistの登場は注目されましたが気泡の特徴がリアルタイムな観察が困難、多発病変の造影に難があることで、普及しているとは言いがたく、この問題をクリアした次世代造影剤の認可が望まれて

いるところ です。

術中US

手術中のUSは特に肝臓外科手術の発展に寄与した検査です。その後の鏡視下手術の発達とともに鏡視下用USプローブが開発されました。なかでもTopicsとしては肝がんに対するラジオ波(RFA)あるいはマイクロ波(MCT)を用いた局所焼灼療法のためのガイド溝を装着したUS装置の開発が挙げられます(図2)。当院では経皮的にアプローチ困難な横隔膜下の肝腫瘍に対して採用していますが、低侵襲手術のための貴重なデバイスであると考えます。

学会活動

昨年の長崎での超音波学会九州地方会では臨床検査技師の発表が約29題あり、臨床面のみならず研究面でも検査技師の活躍が目立つようになってきています。

まとめ

私が研修医の時代にUSは安価で低侵襲な検査といわれていました。多彩な機能の搭載で必ずしも機器自体は安価ではなくなってきましたが、検査する側のストレスは軽減されつつあります。しかし、USに対するニーズが局在診断から質的診断に代わるといえない状況となり、別の意味での重責が今後のUS診断に掛かってくると思います。

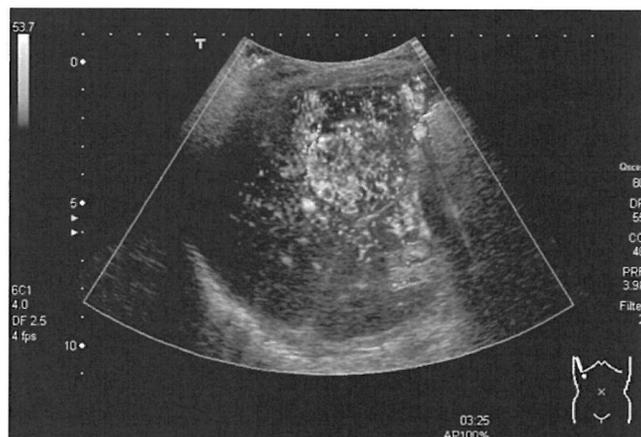


図1 肝細胞がんのLevovistを用いた造影

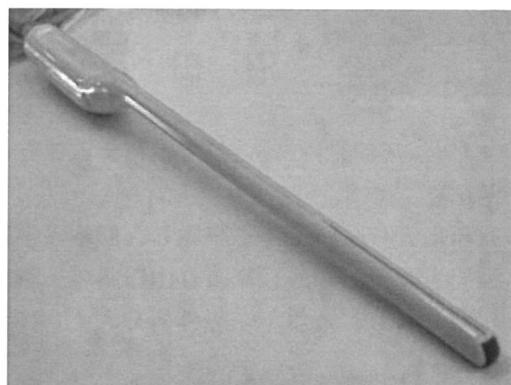


図2 鏡視下治療用超音波プローブ

地域連携クリティカルパスについて

平成18年度の医療制度改正に当たり、地域医療連携の充実・質向上が検討されています。その実践ツールとして、地域連携クリティカルパスが注目されています。

一般的なクリティカルパスは、達成目標（退院基準）を明確にした入院から退院までの医療計画で、急性期病院を中心に広く導入されています。

クリティカルパスは、使用後に、EBMの見地からとバリエーション（クリティカルパスからの逸脱例）の分析から、その妥当性が検証され見直しが行われます。この繰り返しにより、医療の質の向上が得られます。又、クリティカルパスは、医療者用と患者様用がセットで作成され、患者様とも医療計画が共有されるため患者満足度向上にも寄与しています。しかし、患者様が転院される場合は、クリティカルパスが中断され、これらのクリティカルパス効果が半減してしまいます。地域医療連携の充実・質向上が重要な課題となってきた今、転院しても中断されることのないクリティカル

パス、即ち、施設間を越えて使用できる地域連携クリティカルパスの開発・活用に熱い期待が寄せられています。

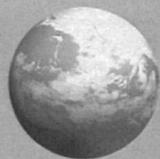
当院では、平成10年度にクリティカルパスを導入した当初から地域連携クリティカルパスに取り組み、平成12年度から実用化しています。これまで開発・運用されてきた地域連携クリティカルパスは、大腿骨頸部骨折等の整形外科疾患、脳血管疾患、一部のがん手術などですが、現在、糖尿病、心筋梗塞等の長期の外来治療・経過観察が必要な疾患に対しても作成運用が始まっています。

地域連携クリティカルパスの作成に当たっては、先ず、連携施設間の基本的な診療方針の統一が必要です。そのためには、医師のみでなく関連職種のスタッフの会合も必要になります。今後、先生方に、ご相談ご教示いただくことが多々出てくるかと存じますが、その折には何卒宜しくお願い申し上げます。

(統括診療部長 野村 一俊)

大腿骨頸部骨折骨接合術用連携パス

ID		→ ID		イニシャル: 氏 . 名 .	歳	性	診断名:	手術日:	手術:	患者No	145		
受傷日:	受傷場所:	受傷機転:	受傷前所在:	受傷前歩行能力:	補助道具:	退院時到達目標: 屋内	屋外	退院後所在:	到達目標: 移動能力	車椅子坐位	平行棒内歩行		
訓練開始日	歩行器歩行	杖歩行	階段昇降	屋外歩行	最終歩行獲得レベル								
経過	入院日	手術日	術後1日	術後2日	術後3~6日	術後7日	術後2週	術後4週	術後6週	術後8週	術後10週	退院日	退院後1週以内
排泄	尿道カテーテル留置		尿道カテーテル抜去		病棟内トイレ		病棟内トイレ						
清潔	清拭		シャワー浴		入浴								
ケアルフ			上下更衣		靴下・靴の着脱		洗面所(立位で)		床から起立				
薬剤			疼痛対策:		疼痛対策:						痛み		
検査	X線(2R)	X線(2R)		X線(2R)	X線	X線	X線	X線	X線	X線	X線	X線	
	採血	採血		採血	採血	採血	採血			採血		採血	
処置	鋼線牽引	創処置	創処置	創処置									
		ドレーン	(1回/2日)	抜糸									
食事	腹鳴音確認後飲水可												
教育	入院時OR	床上動作	家屋調査説明:	入院時OR	家屋訪問調査	家屋改修指導	試験外泊						
	NsOR	の指導	介護保険説明:	介護保険申請			退院時訪問						
退院時情報	荷重制限:	禁忌肢位:	荷重制限:	禁忌肢位:	腰椎疾患:	膝疾患:	既往症疼痛:						
	問題行動:	ROM: 股関節屈曲	ROM: 股関節屈曲	ROM: 股関節屈曲	外転	外転	外転						
	痲痺:	MMT: 大腿四頭筋力	MMT: 大腿四頭筋力	MMT: 大腿四頭筋力	中殿筋力	中殿筋力	中殿筋力						
	痛み:	中殿筋力	中殿筋力	中殿筋力	中殿筋力	中殿筋力	中殿筋力						
	意欲:												
記載日	【コメント】		記載日		【コメント】		退院時転帰		合併症				
担当医			担当医										
看護師			看護師										
理学療法士			理学療法士										



国際医療協力

平成17年度第2回薬剤耐性病原体の実験室診断Ⅱ 集団研修コース

国立病院機構熊本医療センターは、国内唯一の国際医療協力基幹施設として、JICA（国際協力機構）、ACIH（国際保健医療交流センター）及び熊本県と連携し、積極的に国際医療協力を推進しています。

平成17年11月19日より「平成17年度第2回薬剤耐性病原体の実験室診断Ⅱ 集団研修コース」に6名が、当院の教育研修棟に宿泊しながら参加しました。

本コースは、開発途上国における感染症診断に関す

る中心的な役割を果たしているラボラトリーの上級及び中堅技術者に、耐性菌発現の環境、メカニズムからサーベイランスまで幅広く最新の知識を提供し、その知識をもとに日本の第一線の病院現場において検査室での具体的な検査方法、精度管理及び感染対策を学んでもらうことを目的としています。

当院では、主に検査科で実習を行い3月26日まで滞在しました。（文責：庶務班長 上園 直仁）

【平成17年度第2回薬剤耐性病原体の実験室診断Ⅱ 集団研修コース】 2005.11.19～2006.3.26

No Photograph 写真	Country 国名	Name 氏名	Present Post 職業
	Argentina アルゼンチン D-05-07124	Ms. Cristian Natalia Morvillo ナタリア	Biochemist, Microbiology Division "Dr. Ricardo Gutierrez" Children's Hospital ドクター・リカルド・グティエレス小児病院 微生物科 微生物研究員
	Argentina アルゼンチン D-05-07126	Ms. Patricia Cristina Montanaro パトリシア	Supervisor, Microbiology Section Santissima Trinidad Children's Hospital サンティーマ・トリニダド小児病院 微生物科 科長
	Laos ラオス D-05-06420	Dr. Manivanh Nouanphanthakoun マニバン	Head, Laboratory Section Mittaphab Hospital ミタパーブ病院 検査科 科長
	Peru ペルー D-05-07717	Ms. Cabrera Blanca Nina Huapava ブランカ	Coordinator of National Network of Laboratories in Public Health, National Center of Public Health, Natl. Institute of Health 国立衛生研究所 公衆衛生センター 全国臨床検査ネットワーク・コーディネーター
	Uruguay ウルグアイ D-05-07513	Dr. Maria Marcela Legnani Cardoso マルセラ	Middle Manager, Microbiology Sec. Hospital de Clinicas Dr. Manuel Quintela, Univ. of Uruguay/Manager, Food Microbiology Control Lab, Gov. of Montevideo ウルグアイ大学病院 検査科 科長補佐 モンテビデオ市食品衛生検査科 科長
	Zambia ザンビア D-05-07656	Mr. Mickson Nkhoma ミクソン	District Laboratory Technologist Kapata-Mini Hospital カパタミニ病院 検査技師

■ 研修のご案内 ■

第201回 初期治療講座（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成18年4月15日(土)15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「救急蘇生」

座長 熊本県医師会理事 岡本 喜雄

1. 救急蘇生法の動向-2005年コンセンサス-

国立病院機構熊本医療センターICU室長 瀧 賢一郎

2. 救急蘇生薬の検討

国立病院機構熊本医療センター救命救急部長 高橋 毅

3. 蘇生法実習

国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 他

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費20,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

第87回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成18年4月17日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例呈示「当科で経験したtPA静注による血栓溶解療法施行例」

国立病院機構熊本医療センター脳神経センター神経内科 児島 良太

4. ミニレクチャー「イレウスの治療と管理」

国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科 中田 成紀

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図、その他がございましたら、ご持参下さいませようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL 096-353-6501（代表）FAX 096-325-2519

第56回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

〔糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定〕

日時▶平成18年4月20日(木)19:00~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

座長 国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科医長 小堀 祥三

情報提供：テルミサルタンの最新情報について

特別講演：2型糖尿病外来診療における薬物療法の最近のトピックス

済生会福岡総合病院副院長・糖尿病センター長 迫 康博

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 小堀 祥三・東 輝一朗 TEL 096-353-6501（代表）内線796

第82回 総合症例検討会（CPC）

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成18年4月26日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

テーマ：不明熱の精査のために入院してきた60歳代女性について（症例60歳代 女性/主訴発熱の持続、全身倦怠感）
臨床担当）国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病内科 長倉 祥一
病理担当）国立病院機構熊本医療センター臨床研究部臨床病理室長 村山 寿彦
「以前より本態性血小板血症にて、当院にて外来治療を行ってきた。発熱が出現し、不明熱の精査のために当院に入院となった。」

*不明熱の鑑別診断と臨床経過について、詳細な検討を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽に御参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

平成18年 研修日程表 4月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

4月	研修ホール	会議室	その他
3日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
4日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
5日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
6日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
7日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
10日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
11日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
12日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
13日(木)	18:30~20:00 病薬連携研修会		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
14日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
15日(土)	15:00~18:00 第201回 初期治療講座《会員制》 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「救急蘇生」 座長 熊本県医師会理事 岡本 喜雄 1. 救急蘇生法の動向-2005年コンセンサス- 国立病院機構熊本医療センターICU室長 瀧 賢一郎 2. 救急蘇生薬の検討 国立病院機構熊本医療センター救命救急部長 高橋 毅 3. 蘇生法実習 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 他		
17日(月)	19:00~20:30 第87回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
18日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
19日(水)	18:00~19:30 第42回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルバス研究会(公開)	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
20日(木)	19:00~21:00 第56回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定]	19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
21日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
24日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
25日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
26日(水)	19:00~20:30 第82回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「不明熱の精査のために入院してきた60歳代女性について」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
27日(木)	18:30~21:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
28日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
29日(土)	13:30~17:00 第66回 ナースのための救急蘇生法講座(会費制) 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 ほか		

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手 手術室控室 臨 臨床研究部会議室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代) 内線263 096-353-3515(直通)